

## ヒマワリの無加温移植栽培における 11 月出荷技術の開発

### [ 要約 ]

9 月上旬播種、9 月下旬定植の作型において、80 穴シードルポットを用い、育苗培土中窒素量を 600mg / 育苗培土 L とし、電照処理を行うことにより、4 日程度開花が遅れるものの、9 月上旬に直播したものと同程度の切花品質及び収量が得られる。

農業総合センター鹿島地帯特産指導所

成果  
区分

指導

### 1 . 背景・ねらい

鹿島南部地帯の土壌、気象条件を活かした市場性の高い新品目の導入を図り、産地の安定化に資する。ここでは 9 月中旬出荷輪ギク収穫後の無加温ハウスの有効利用を図るため、ヒマワリについて検討する。ヒマワリの当地域における播種限界は 9 月上旬(平成 13 年、鹿島特産)である。そこで、9 月上旬播種、9 月下旬定植無加温栽培における 11 月出荷技術の開発を行う。

### 2 . 成果の内容・特徴

- 1 ) 80 穴シードルポットを用いて育苗すると、72 穴セルトレイを用いる場合より、茎長、茎径、花径が増加する。(表 1 )
- 2 ) 育苗培土中の窒素量を 600mg / 育苗培土 L とすると、300mg / 育苗培土 L とした場合より、茎長が増加する。(表 1 )
- 3 ) 電照(最初に展開する本葉 2 枚が子葉とほぼ同じくらいの大きさに展開した時期から 2 週間)を行うと、無電照より茎長、葉数、重量、花径は増加するが、開花は 2 ~ 6 日程度遅れる。(表 1 )
- 4 ) 茎長はいずれの処理でも増加したが、茎径については、72 穴セルトレイを使用した場合より、80 穴シードルポットを使用した場合で増加した他は効果がなかった。(表 1 )
- 5 ) 育苗容器は 80 穴シードルポットを用い、育苗培土中の窒素量を 600mg / 育苗培土 L とし、電照処理を行うことにより、開花は 4 日程度遅れるものの、直播と同程度の切花品質、規格別収穫量が得られる。(表 1 , 図 1 )

### 3 . 成果の活用面・留意点

- 1 ) 当成績は鹿島南部地帯での試験であるため、地域や栽培施設の相違により播種時期を異にするので注意が必要である。

#### 4. 具体的データ

表1 育苗容器、育苗培土中窒素量の違い及び電照の有無が開花日、切花品質に及ぼす影響<sup>1)</sup>

育苗容器	育苗培土中N量 (mg/L)	電照処理	開花日 <sup>2)</sup> (日)	到花日数 (日)	茎長 (cm)	茎径 <sup>3)</sup> (mm)	葉数 (枚)	重量(g)		花径(cm)		
								無調整	90cm調整 <sup>4)</sup>	全体	筒状花径	舌状花長
72穴セルトレイ	300	無	10/31 ± 2.0	58	84	5.8	18	64	46	11.7	4.3	3.7
		有	11/2 ± 1.4	60	111	5.7	23	100	63	12.4	5.2	3.6
	600	無	10/26 ± 2.7	52	88	5.6	19	63	59	10.1	3.2	3.5
		有	11/1 ± 1.6	58	126	6.3	23	125	73	13.3	5.9	3.7
80穴シードルポット	300	無	10/30 ± 3.2	57	91	6.5	19	80	66	11.9	4.5	3.7
		有	11/2 ± 1.3	59	120	6.4	23	127	77	13.8	5.9	3.9
	600	無	10/26 ± 2.5	53	98	5.7	21	79	53	11.6	4.0	3.8
		有	11/1 ± 0.8	59	130	6.7	24	147	87	14.1	6.3	3.9
直播	-	無	10/28 ± 2.5	55	113	6.8	25	144	81	14.0	5.9	4.0

注1) 調査日: 満開時 注2) 開花日: 平均開花日 ± 標準偏差 注3) 茎径: 花の基部下5cmの茎径  
 注4) 90cm調整重: 花の基部より5cmの長さに調整し、更に花の基部より5cm以下の葉を摘除したときの重量

##### 耕種概要

品種: 「サンリッチオレンジ」 栽培施設: 無加温パイプハウス  
 播種: 平成15年9月4日 (播種場所 直播区: 無加温パイプ, 育苗区: 育苗容器) 定植(育苗区のみ): 9月22日  
 前作物: 輪ギク 施肥: なし 栽植間隔: 株間10cm、4条植え

##### 試験条件

育苗容器: 72穴セルトレイ, 80穴シードルポット  
 育苗培土: 育苗培土S (窒素量 300mg/育苗培土L), 育苗培土S+超微粒被覆磷硝安加里40日タイプ (N12- P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>10- K<sub>2</sub>O 11)  
 (窒素量 600mg/育苗培土L) 電照処理: 9月12日~25日、夜間4時間(22時~2時)暗期中断

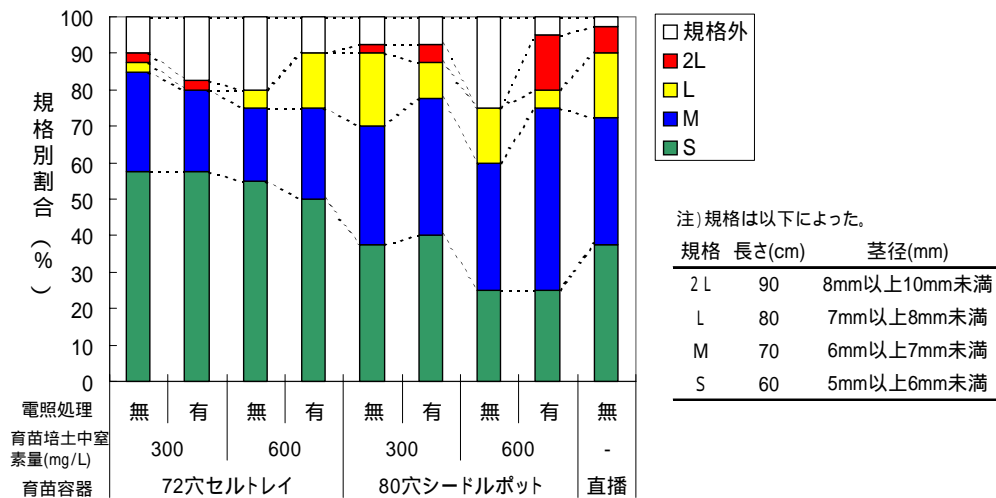


図1 育苗容器、育苗培土中窒素量の違い及び電照の有無別の規格分布

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

鹿島南部砂質地帯における夏秋ギクを中心とした花き産地の安定化技術開発・1999~2003年度・鹿島地帯特産指導所